

医療の現場から～市立病院発第3回～（広報やまと平成20年12月15日号掲載）

肺炎球菌ワクチン

肺炎は日本人の死因の中で4番目に多く、年間約8万人が亡くなっています。特にその多くを占めているのは65歳以上の高齢者です。今回は、肺炎の原因菌の中でも最も一般的な「肺炎球菌」について紹介します。

【肺炎球菌とは】

肺炎球菌には80種類以上の型があります。肺炎球菌による肺炎は死亡率が高く、発症から数時間で命にかかわる重症になる場合もあります。また肺炎球菌は、肺炎や気管支炎などの呼吸器感染症のほか、副鼻腔炎、中耳炎、髄膜炎などの病気を引き起こすこともあります。

【肺炎球菌ワクチンとは】

肺炎球菌ワクチンを接種すると、80種類以上の肺炎球菌のうち、感染する機会が多い23種類の型に免疫をつけることができ、肺炎球菌による感染の約8割に効果があるといわれています。また、肺炎球菌ワクチンは、接種後1か月でワクチンの効果が最高値となり、接種から5年経過しても最高値の8割の効果が残るといわれています。

ワクチンの接種は65歳以上の高齢者や慢性呼吸器疾患がある人、免疫が低下している人に推奨されています。接種後の副作用として、注射部位のはれや痛み、微熱が出るがありますが、1～2日で治ることがほとんどです。

市立病院呼吸器内科では、自己負担金12,000円程度で肺炎球菌ワクチン接種を実施していますので、ご相談ください。

（このコラムは市立病院総務課．（260）0111が担当しています。）